

山口県体育学会
関係各位

理事長 曽根 涼子

山口県体育学会第 70 回大会

ご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より本学会の発展にご尽力賜り、誠にありがとうございます。

さて、標記の大会を下記のとおり開催いたします。

ご多忙の折とは存じますが、皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

記

【日 時】 令和 7 年 12 月 20 日 (土)

9 : 30 ~ (受付 9 : 15 ~)

【場 所】 山口大学教育学部 43 番教室

(〒753-0841 山口市吉田 1677-1)

【主 催】 山口県体育学会

(ホームページ : <http://www.yamaguchi-taiiku.jp/index.html>)

【後 援】 山口大学教育学部

【問い合わせ先】 山口学芸大学教育学部 准教授 船場大資

〒754-0032 山口市小郡みらい町 1 丁目 7 番 1

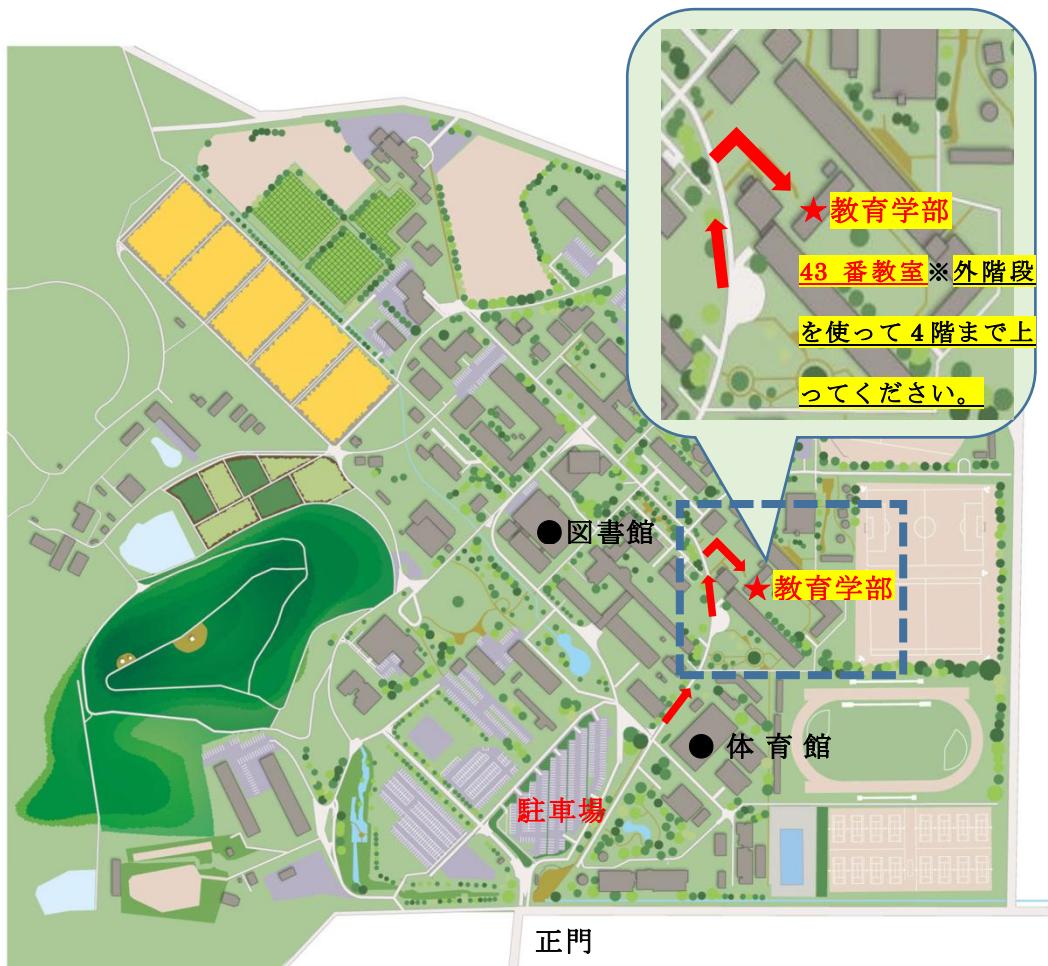
Tel : 083-972-3288 (代表)

mail : dfunaba@yamaguchi-jca.ac.jp

何卒ご参加賜りますようお願い申し上げます。

敬具

山口大学キャンパスマップ



◎会場までの道順について

当日は、教育学部の正面玄関が施錠されております。お手数をおかけいたしますが、教育学部正面玄関に向かって左側に約 20 メートル直進してください。その後、右側にあります教育学部の駐輪場方面にお進みください。

次に、右折の矢印の示す方向に進んでいただくと外階段がございます。こちらから 4 階へお上がりください。会場は 43 番教室となります。

一大会プログラム

受付 9:15～
開会の辞 9:30～9:35

I. 一般研究発表（発表7分・質疑3分）

座長 山崎 文夫（山口県立大学）

9:37～9:47

1. 地域高齢者の運動機能を高めるプログラム開発について—至誠館大学の事例報告を中心にして—

陳 昱龍（至誠館大学）、岡崎 祐介（至誠館大学）、栗原 俊之（山口大学）、高屋 英人（至誠館クラブ）、谷野 芳之（萩市総合政策部企画政策課）、福田 一義（至誠館大学）

本研究は、地域在住高齢者を対象に、柔軟性・筋力・バランス能力の向上を目的とした「シニア向け健康増進プログラム」を開発し、その有効性を検証したるものである。萩市在住 60 歳以上の高齢者を対象に体力測定と健康増進体操を組み合わせた年間プログラムを実施し、家庭でも取り組める軽度筋力トレーニングも提供した。参加者 103 名のうち女性が約 7～8 割を占め、主たる年齢層は 70 代であった。アンケート調査では「動けるようになった」「前向きに考えられるようになった」など肯定的な変化が多かったことが分かった。本プログラムは、参加者の身体機能および意識の向上に寄与し、地域高齢者の介護予防・健康増進に有効な取り組みであることが示唆された。

キーワード：高齢者、体力測定、運動機能、運動プログラム開発

9:48～9:58

2. 実用的な仮眠姿勢の検討：体幹起立角度が 45 度と 60 度における机上うつ伏せ姿勢の効果比較

松井 来玲愛（山口大学）、松野 美涼（山口大学）、山崎 文夫（山口県立大学）、曾根 涼子（山口大学）

近年、短時間仮眠の有効性は広く認められている。しかし、多くの職場・学校で利用しやすい、座位で机上にうつ伏せる姿勢の至適な方法論は未確立である。本研究は、この実用的な仮眠姿勢について、体幹の起立角度（45 度 vs. 60 度）が主観的症状および仮眠の質に及ぼす影響を、主観的・生理学的指標に基づき検討することを目的とした。実験 1 では、体幹起立角度が 45 度と 60 度の机上うつ伏せ姿勢を覚醒下でそれぞれ 20 分間保持させ、しびれ感や疼痛などの主観的苦痛を評価した。実験 2 では、それら 2 つの姿勢条件で同時

間仮眠を実施し、仮眠に対する満足度（睡眠の質）や脳酸素化動態、心拍数などの生理学的指標を評価した。これらの結果を総合的に検討することで、より実用的な仮眠姿勢を追及する。

キーワード：短時間仮眠、机上うつ伏せ、主観的症状、睡眠の質

9:59～10:09

3. 中学校の長距離走における愛好的態度育成のための実践研究

関野 稲介（山口大学大学院）、斎藤 雅記（山口大学）

本研究は、中学生の長距離走において、生徒の愛好的態度を育成することを目的とする。授業ではチームパシュートを中核に据え、生徒自身が 200m ごとにラップタイムを計測・共有する仕組みを導入した。走行環境として①標準トラック、②音楽付加、③障害物付加、④校舎周辺を活用したコース変化の 4 条件を比較し、環境の違いが学習に及ぼす効果を検証した。指標には形成的授業評価法と運動有能感尺度を用い、記録は 1000m（女子）・1500m（男子）で測定した。走行中の環境条件とラップタイムの可視化が、愛好的態度、運動有能感、ペースの安定性および記録向上にどのように寄与するかを明らかにする。

キーワード：中学校体育、長距離走、愛好的態度、パシュート、ペース保持

座長 上地 広昭（山口大学）

10:10～10:20

4. 共生の視点に着目した男女共習体育におけるバレーボール授業の実践

實近 瑞聖（山口大学大学院）、前田 康光（宮野中学校）、青木 健（山口大学）

本研究では、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成に向けた男女共習体育の指導法の提案として、中学 1 年を対象に「思いやり」の視点に着目したバレーボールの実践を行った。思いやりの気持ちをより深く学ぶために、まず生涯スポーツに関する学習を行い、次にパラの視点でシッティングバレーを体験させた後、バレーボールの実践へつなげた。その結果、男女ともに仲間のことに対する視点が行き、互いを気持ちでカバーしようという態度が身に付いたため、技能差がある中でもラリーが続くようになった。今後男女共習で行う他の単元においても、相手への思いやりをもたせ続ければ、種目にかかわらず全員が支え合いながら活動に参加できるようになると考える。

キーワード：中学校、ジェンダー、思いやり、インクルーシブ

10:21～10:31

5. 専門学校体育授業が学生の感情や運動への意識に及ぼす影響—ミニテニスを取り入れた実践を通して—

岡崎 祐介（至誠館大学）

「令和5年国民健康・栄養調査」では、20歳～29歳女性の運動習慣の割合が低い傾向にあると報告されている。高校卒業後の進路が多様化している中で、特に専門学校はカリキュラムに体育またはそれに代わる科目が設けられていない場合があり、「多忙さ」ゆえに学生が運動習慣を確立することが難しい状況にあると考えられる。

そこで本研究では、専門学校に在学する女子学生の運動経験を把握し、体育授業が学生の感情や運動に対する意識に与える影響について明らかにすることを目的とした。

その結果、約9割の学生が運動の重要性を認識している一方で、「運動を好き」と回答した学生は約6割であった。さらに、体育授業によって学生の不安感が減少し、快感情が増加する傾向にあることが示唆された。

キーワード：体育授業、ポジティブ感情、運動意識、専門学校

10:32～10:42

6. CLIL の視点を取り入れた英語による体育実技授業の試み（7）－英語を使用したBaseball5の授業を事例として－

伊藤 耕作（宇部工業高等専門学校）、二五 義博（山口学芸大学）

現在日本では、外国語の効果的な習得方法として内容言語統合型学習（CLIL）が注目されている。CLILは「内容と言語」の同時習得に加え、「思考」や「協学」を重視し、学習者主体の質の高い学びを促す指導法である。数学・理科・社会などとの組合せは報告が多いが、実技教科、特に体育を対象とした研究は依然少ない。こうした中、二五・伊藤（2016）はサッカーを題材に4C（内容、言語、思考、協学）の観点から体育CLILの利点と課題を示した。その後も複数の種目で実践を重ね、日本における体育CLILの可能性を探求してきた。本研究では第7例としてBaseball5を取り上げ、体育と英語の教科横断的授業の利点と課題を検討する。

キーワード：教科横断的授業、CLIL、Baseball5

10:43～10:53

7. 「教育学としての教育史」を巡る議論からみる「体育・スポーツ史」教育

石立 克己（至誠館大学）、近藤 雄大（津山工業高等専門学校）、

船場 大資（山口学芸大学）

本発表は、「体育・スポーツ史研究」「教員養成における体育史教育」「中等教育における体育理論」の関係性を、教育史研究における教師教育を巡る近年の議論を手掛かりに再検討するものである。

近年、教育史学会では教師教育への関心の希薄さが問題化され、研究・教育・教職教養の往還が改めて問われている。また、社会史・文化史・ポストモダンの影響により「教育学としての教育史」の優位性が揺らいだとの指摘もある。こうした議論を参照しつつ、教員養成課程の「教科に関する専門的事項」、中・高保健体育科「体育理論」領域にも位置づけられている体育・スポーツ史の独自性に着目する。この独自性を踏まえ、体育・スポーツ史における研究・教育・実践の関係性について考察し、体育・スポーツ史領域が教育学においていかなる位置づけを得るべきかを検討していきたい。

キーワード：体育理論、教師教育、理論と実践

II. 特別講演

座長 曽根 涼子（山口大学）

11:00～12:00

「農学部の特色を活かした運動生理学的研究」

山口大学農学部教授 宮田 浩文 氏

様々な要因が絡み、教養部から農学部に移籍することになって(1996年~)、30年近くが経過した。当時、どうせなら農学部でしかできない運動生理学的な研究をしてやろうと覚悟を決めて、長年取り組んできた。幸い、学問的な興味を共有できる数名の教員および多くの学生さん(卒論生 93名、修論生 33名、博士論文学生 9名)に巡り合えて、オリジナリティのある運動生理学的研究を展開することができたと自負している。これまで発表した自分の論文はおおまかに 4つのテーマに分類できるが、今回は「農学部の特色を活かした運動生理学的研究」と題して、以下の 2点に絞ってお話しする。

- 1)運動パフォーマンスにおける素質とは何か?
 - 2)ホニュウ動物の中でヒトの骨格筋は独特か?
- 一加齢変化に抵抗するヒトの挑戦—

III. 総会 12:10～

報告事項

- 1.令和6（2024）年度会計報告
- 2.令和7（2025）年度事業および会計経過報告
- 3.令和7（2025）年度日本体育学会報告
- 4.その他

協議事項

- 1.令和8（2026）年度事業計画について
- 2.令和8（2026）年度会計予算について
- 3.投稿規程における著作権帰属に関する規定の追加について

以上

【 演者の方へ 】

- パワーポイントを使って発表される演者の方は、PC (OS: Windows) とプロジェクターをこちらで用意いたします。ただし、ソフトは、PowerPoint 2016 ですのでご注意ください。
- プリントを配布される方は、資料を 30 部ほど各自でご用意ください。
- これら以外の方法で発表される方は、事務局までご連絡ください。

【 参加者の皆様へ 】

- 大会参加費は、無料です。
- 山口県体育学会会員の方は、年会費（¥2,000）の納入をお願いします。
- 本学会への入会を希望される方は、ホームページの「入会案内」をご覧ください。

【 お知らせ 】

『山口県体育学研究』第 69 号への投稿を募集しています。
なお、投稿についての詳細は、『山口県体育学研究』の「投稿規定」をご覧下さい。

山口県体育学会事務局

〒754-0032 山口市小郡みらい町 1 丁目 7 番 1 号

山口学芸大学教育学部 船場研究室

Tel : 083-972-3288 (代表)

FAX : 083-972-4145

mail : dfunaba@yamaguchi-jca.ac.jp